

草の根の学生交流（ハーストビル市－白石市・マンリー市－小田原市）

毎年、日本とオーストラリアの自治体間で中高生の交流が行われています。日本からの生徒達は、ホームステイしながらホストファミリーや現地の学校の生徒達との時間を思いっきり楽しんでいます。また、日本の生徒達は、日本の伝統文化をオーストラリアの友達に紹介するなど、相互に理解し合う絶好のきっかけになっています。

1 NSW 州ハーストビル市－宮城県白石市の姉妹都市交流（7 月 25 日－30 日）

7 月 29 日（月）ハーストビル市主催の姉妹都市交流イベントが開催され、両市の子供も達が楽しいひと時を過ごしました。白石市からは 10 人の中学生を含む訪問団が参加され、ハーストビル市からは、市長や幹部、姉妹都市関係者、ホストファミリーが出席しました。

ハーストビルから白石の子ども達には記念品が贈呈され、また、白石からは子ども達が、日本の民謡やアニメの歌を披露したり、けん玉やコマ、折り紙を英語で説明しながら日本文化を紹介しました。ハーストビル市長自らも子ども達とけん玉で遊んだり、記憶にのこる時間を過ごしたりと、双方の子ども達はとても喜んでいました。



ハーストビル市と白石市は、今年 9 月に姉妹都市提携 20 周年を祝う交流事業も企画されており、クリアもこのような活動を支援していきます。

2 NSW 州マンリー市－神奈川県小田原市の友好都市交流(7 月 26 日－8 月 5 日)

7 月 30 日（火）、マンリー市主催の市役所見学と交流イベントが開催されました。マンリー市と小田原市は友好都市として交流事業を毎年行っており、双方が行き来しています。今年は 15 名の中・高校生が訪れており、この日は、生徒一人ひとりに参加証明書が授与されました。その後、子ども達はマンリー市役所の施設や名所を訪問し、マンリー市役所の仕事や環境問題等多くのことを学びました。



クリアスタッフも同行支援する中で、生徒達と多くのことを一緒に考え、学ぶ良い機会となりました。

3 姉妹都市交流の今後の課題

今回の 2 つの交流イベントで見られた共通の課題があります。それは、このような交流を支えるキーパーソンが双方にいて、この存在なしでは継続が難しいということです。

市役所のカだけでは、この交流は維持できません。市民の方々の熱心な支えがあってこそ成し得るのだということです。ハーストビルと白石市においても毎年ご尽力いただく方がおり、その人のお陰で交流が途絶えず続いている、と伺いました。マンリー市と小田原市においても、ときめき国際学校に関する市民の方がご尽力いただいております、また、マンリー市に設置されている姉妹都市委員会には、実に多くの市民ボランティアが参加しているそうです。このように、市民の方々の草の根の活動が、姉妹都市の関係を継続させる重要な原動力となっているのです。

そして、このような交流が長期に渡り続けられてきた現在、新たな問題として、市民の原動力をまとめるキーパーソンとなる方々が高齢化しているということがあげられます。「この交流に参加した子ども達の中から、近い将来、是非引き継いでもらいたい。」という思いも伺いました。

(奥野所長補佐 和歌山県和歌山市派遣)

